

生活デザイン (第1報)

— 四季の色 —

河村瑞江・山田真由美

Daily Life Design (1)

The colors of the four seasons

Mizue KAWAMURA and Mayumi YAMADA

はじめに

環境問題に対する関心が高まっている今日、デザインの果たす役割は大きいと思われる。形態、色彩、素材の三要素のうち色彩は知覚的伝達力が大きい。従って色彩の及ぼす影響について慎重に扱う必要があると考える。

現在、科学技術の進歩により生活様式が大きく変化した。特に都市生活では人工的空間で生活時間を持つことが多く、自然と接する機会が少なくなっていると思われる。また情報伝達の媒体として使われる屋外広告物などの多彩で高彩度の色彩は、都市景観の立場で問題とされるところであり、環境色彩について種々の視点から研究活動や改善策の動きがみられる。62年度¹⁾「日本人のライフスタイル」総理府世論調査によれば、「生活の中で日本的好みを活かしたいか」の問いに対して、半数以上が生かしたいとしている。このような現状において、色彩を考えるとき、自然環境と関わりあって発展した日本の色彩文化を大切にしたいと考える。

以前、日本は四季折々の移り変わる季節をたのしみ、それを生活の中に生かしていた。住居においては、夏は障子戸を簀戸やすだれで涼しさを表現し、冬は雪見障子で外の情景を眺め、床の間では掛け軸を替え、四季の花をそえるなど。また衣生活では²⁾衣服のかさね色にみるように、自然と生活との関わりを大切にしていた。

このように豊かな伝統的な色の文化を現代の生活デザインの立場に立って生かしたいと思い生活デザインと色彩の関係を四季のイメージ色から追求したいと考えた。今回はそのイメージ因子について単一色と配色構成及び用語と色の3点から調査検討した。

方 法

1. 調査日及び調査条件

昭和63年11月、平成1年11月、いずれも秋とし自然昼光下晴天日。

2. 調査対象

本学短期大学部生活造形クラス学生、合計102名(昭和63年度、平成1年度)色彩学を学び比較的デザインに興味をもつ学生の集合体。

3. 調査材料

日本色彩研究所発行、配色カード129b〔日本色研配色体系の中からv(ビビット・トーン)

24色相と無彩色9段階と p, lt, b, dp, dk, ltg, g, d の8トーン12色相からなる129色によって構成されている]を使用した。

従って本研究は、色研システム (PCCS) で表現するが、必要に応じて JIS 標準色票 (日本規格協会 JIS-Z 8721) を使用し、近似値を測定したものを添えた。

4. 調査資料及び内容

四季のイメージ色における単一色、四季の配色構成及び用語と色の関係を探るために下記4種を調査資料とした。

(1) 四季の因子として単一色の調査資料：3の調査材料129色配色カードより、四季のイメージ色を5種ずつ選んでもらい、それに1～5位までの順位をつけた。

(2) 四季の配色構成の資料：³⁾大智浩氏「生活デザインの色彩計画」を参考に1マスが2cm²で5×4=20マスの矩形を1季節とし(1)と同カードを使用し、四季を客観的に捕らえる色彩表現の実習を行った。

(3) (1)(2)を行うにあたって春夏秋冬の四季ごとに連想した用語を5種ずつ列挙してもらった。

(4) (3)の四季のイメージ用語のうち上位10位について(1)と同カード129色によって用語からイメージする色を選んでもらった。

資料(1)と(2)は異なった視点から四季の因子を抽出したものであり、別々に抽出することによって比較検討をした。色相の分析については、12色相と無彩色を合わせて13種とし、百分率の平均値7.7を中央値と定め増減を+、-で示すことによって、色相相互における出現の状況を知る方法をとった。今回は(1)の単独色のデータを主として(2)による資料の出現率を比較し四季のイメージ因子を分析した。

結果及び考察

1. 春のイメージ色

春の因子を色相別にみると8・Y (14.1%), 12・G (13.3%), 24・RP (11.9%), 4・rO (10.2%), 2・R (10.2%), の順で中性色から暖色系に^{プラス}因子がみられ、^{マイナス}因子としては無彩色、18・B (2.5%), 他 (表3-1) で示す。

色調別ではPトーンが65.5%, ltトーンが23.1%の他、bトーンが7.1%であり、dk, dp, gの各トーンは0であり、圧倒的にPトーンに春の因子色が集まっている。春の因子色10位までは次の色が抽出された。

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1. P 8 (8・Y-9.0-3s · 5.0Y 9.0/3.5) | 2. P 12 (12・G-8.5-3s · 5.0G 8.5/2.5) |
| 3. P 24 (24・RP-8.0-3s · 5.0RP 8.0/3.8) | 4. P 4 (4・rO-8.5-3s · 5.0B 8.5/2.5) |
| 4. P 10 (10・YG-9.0-3s · 5.0GY 8.5/4.5) | 6. P 16 (16・gB-8.0-3s · 5.0B 8.5/2.5) |
| 7. lt 2 (2・R-7.5-6s · 5.0R 7.5/ 8) | 8. P 20 (20・Y-8.0-3s · 5.0B 8.5/2.5) |
| 9. P 6 (6・rO-9.0-3s · 2.5Y 9.0/3.5) | 10. P 2 (2・R-8.5-3s · 10R 8.0/4.0) |

以上10位までであるが、これらの結果から7位の2・Rのltトーン以外はすべてPトーンである。調査資料(2)四季の配色構成の表2-1では春の因子度の高い色は(1)と同じ傾向でありP24が最も高い。これは春のイメージ色5種を選ぶにあたって順位をつけてもらった結果においても(集計表は紙面の都合で省いた)第1因子として抽出されているので、最も強くイメージされている色であるといえる。無彩色と18・Bは表1-1、表2-1において最も出現率が低い、従って春の因子から最も遠い色相であるといえる。また表3は(1)(2)の色相の出現率を四

表1 色相・色調別四季の因子色 (配色カード129色より5色づつ抽出した色)

表1-1 春

トーン	色相	2-R	4-rO	6-yO	8-Y	10-YG	12-G	14-BG	16-gB	18-B	20-V	22-P	24-RP	計	%
V	ビビッド			1	2	6	2							11	2.1
P	ベール	20	41	21	52	33	45	11	29	7	22	14	39	334	65.5
ll	ライト	28	8	12	10	5	13	4	3	4	4	9	18	118	23.1
b	ブライト	4	2	1	7	5	6	3	1	2	1	1	3	36	7.1
Φ	ファイブ													0	0
dk	ダーク													0	0
l+g	ライトグレイッシュ		1		1	1	2						1	7	1.4
g	グレイッシュ													0	0
d	ダール					1								1	0.2
計		52	52	35	72	50	68	20	33	13	27	24	61	507	99.4
無彩色														3	0.6
数量														3	0.6
明度		W	Hcy	Hcy	mCy	mCy	dkCy	dkCy	dkCy	BK	計			510	100
		(9.5)	(8.5)	(7.5)	(6.5)	(5.5)	(4.5)	(3.5)	(2.4)	(1.0)					

表1-2 夏

トーン	色相	2-R	4-rO	6-yO	8-Y	10-YG	12-G	14-BG	16-gB	18-B	20-V	22-P	24-RP	計	%
V	ビビッド	62	64	49	77	14	50	27	12	63	4	3		425	83.3
P	ベール	1							8	2				11	2.2
ll	ライト					1	2	1	8	1				13	2.6
b	ブライト	1	1	5	3	2	1	9	18					40	7.8
Φ	ファイブ			1		1	2				1			5	1.0
dk	ダーク													0	0
l+g	ライトグレイッシュ													0	0
g	グレイッシュ													0	0
d	ダール			1										1	0.2
計		63	65	51	83	18	55	31	37	84	5	3	0	495	97.1
無彩色														15	2.9
数量														15	2.9
明度		W	Hcy	Hcy	mCy	mCy	dkCy	dkCy	dkCy	BK	計			510	100
		(9.5)	(8.5)	(7.5)	(6.5)	(5.5)	(4.5)	(3.5)	(2.4)	(1.0)					

表1-3 秋

トーン	色相	2-R	4-rO	6-yO	8-Y	10-YG	12-G	14-BG	16-gB	18-B	20-V	22-P	24-RP	計	%
V	ビビッド			7	9	3								20	3.9
P	ベール													0	0
ll	ライト													0	0
b	ブライト			1					1				1	4	0.8
Φ	ファイブ	29	40	23	47	5	1	2	2	1		1	7	158	31.0
dk	ダーク	10	28	49	43	25	3	2	2	3		2	2	169	33.1
l+g	ライトグレイッシュ	1		8	9	5	2		1	2	1		1	30	5.9
g	グレイッシュ	4	9	13	13	19			2				2	62	12.2
d	ダール		7	16	28	7		1	1	1		2	2	65	12.7
計		44	92	119	143	61	6	5	9	7	1	7	14	508	99.6
無彩色														2	0.4
数量														2	0.4
明度		W	Hcy	Hcy	mCy	mCy	dkCy	dkCy	dkCy	BK	計			510	100
		(9.5)	(8.5)	(7.5)	(6.5)	(5.5)	(4.5)	(3.5)	(2.4)	(1.0)					

表1-4 冬

トーン	色相	2-R	4-rO	6-yO	8-Y	10-YG	12-G	14-BG	16-gB	18-B	20-V	22-P	24-RP	計	%	
V	ビビッド	6	1	2	1				3	1	3	3	1	1	22	4.3
P	ベール					1			2	4	5	2	1	15	2.9	
ll	ライト								2	1	1			4	0.8	
b	ブライト			1					1	3	2			7	1.4	
Φ	ファイブ	9	2	1	1		2	1	3	6	1	1	3	30	5.9	
dk	ダーク	14	4	11	7	5	7	9	13	29	5	11	4	119	23.3	
l+g	ライトグレイッシュ	6	2	2	3		1	1	13	21	14	2	1	66	12.9	
g	グレイッシュ	2	3	8	9	1	3	2	11	15	7	4	5	70	13.7	
d	ダール					1			1	9	1		2	14	2.8	
計		37	12	25	21	8	13	16	47	91	39	21	17	347	68.0	
無彩色														32.0	6.3	
数量														32.0	6.3	
明度		W	Hcy	Hcy	mCy	mCy	dkCy	dkCy	dkCy	BK	計			510	100	
		(9.5)	(8.5)	(7.5)	(6.5)	(5.5)	(4.5)	(3.5)	(2.4)	(1.0)						

表3-1 春・色相の出現率の比較

色相	2-R	4-rO	6-yO	8-Y	10-YG	12-G	14-BG	16-gB	18-B	20-V	22-P	24-RP	無彩色	%
(1) 資料	+10.2	+10.2	-6.9	+14.1	+10.0	+13.9	-3.9	-6.4	-2.5	-5.3	-4.7	+11.9	-0.6	100
(2) 資料	+10.3	+9.0	+8.5	+11.9	+10.2	+9.7	-4.9	-5.7	-4.9	-6.9	-5.9	+11.1	-1.0	100

表3-2 夏・色相の出現率の比較

色相	2-R	4-rO	6-yO	8-Y	10-YG	12-G	14-BG	16-gB	18-B	20-V	22-P	24-RP	無彩色	%
(1) 資料	+12.3	+12.7	+10.0	+16.3	-3.5	+10.8	-6.1	-7.3	+16.5	-1.0	-0.6	-	-	100
(2) 資料	+9.4	+10.8	+10.6	+14.0	+9.1	+9.4	-7.4	+9.3	+13.1	-2.5	-1.3	-1.2	-	100

色相の平均値7.7を基準として+-の符号で示す

表2 四季の配色構成による色相・色調別四季の因子色 (配色カード129色より20マスを構成した色)

表2-1 春

トーン	色相	2・R	4・rO	6・yO	8・Y	10・YG	12・G	14・PG	16・PB	18・B	20・V	22・P	24・RP	計	%
V	ビビッド	1	1	5	8	17	13		1	1		1	1	49	2.4
P	パール	84	101	91	136	126	129	68	96	68	104	68	144	1215	60.0
H	ライト	108	72	63	74	52	42	25	17	25	32	45	67	622	30.1
b	フライト	16	7	12	19	12	11	5	1	6	4	6	12	111	5.4
Φ	ディープ			2										2	0.1
κ	ターク						1	1						2	0.1
†	ライトグレ イッシュ	1	2	1	5	2	2	2	1				1	17	0.8
g	グレイッシュ													0	0
d	ダール						1							1	0.1
計		210	183	174	242	209	199	101	116	100	140	120	226	2020	99.0
数量		15	3	1						1	20	1.0		2040	100
明度		W (9.5)	HcY (8.5)	mCY (6.5)	mCY (6.5)	mCY (4.5)	dCY (3.5)	dCY (2.5)	BK (1.0)						

表2-2 夏

トーン	色相	2・R	4・rO	6・yO	8・Y	10・YG	12・G	14・PG	16・PB	18・B	20・V	22・P	24・RP	計	%
V	ビビッド	174	204	184	242	155	162	118	82	179	39	19	19	1587	77.8
P	パール	3		2	2	5	9	32	13	3	2			52	2.5
H	ライト	1	3	2	2	5	5	9	32	13	3	2		77	3.8
b	フライト	10	12	14	37	24	21	14	43	51	4	4	3	237	11.6
Φ	ディープ	2	1	2	2	2	2	7	6	7	1			32	1.6
κ	ターク			4				1	3					8	0.4
†	ライトグレ イッシュ						1							1	0.1
g	グレイッシュ									1				1	0.1
d	ダール	1		2						1				5	0.2
計		191	220	216	285	186	192	151	189	267	52	27	24	2000	98.1
数量		32	3	1	1				1	2	40	1.9		2040	100
明度		W (9.5)	HcY (8.5)	mCY (6.5)	mCY (6.5)	mCY (4.5)	dCY (3.5)	dCY (2.5)	BK (1.0)						

表2-3 秋

トーン	色相	2・R	4・rO	6・yO	8・Y	10・YG	12・G	14・PG	16・PB	18・B	20・V	22・P	24・RP	計	%
V	ビビッド		19	24	10	2			3		2	10	5	75	3.7
P	パール											1	1	1	0.1
H	ライト			1	4							1	1	6	0.3
b	フライト		7	6						3	2			18	0.9
Φ	ディープ	64	102	103	145	49	10	7	6	4	5	33	528	25.9	
κ	ターク	65	91	115	101	87	38	42	9	14	8	12	26	608	29.8
†	ライトグレ イッシュ	20	16	38	42	28	6	1	7	7	5	7	11	188	9.2
g	グレイッシュ	20	43	66	56	53	16	8	5	2	4	1	16	290	14.2
d	ダール	19	52	70	81	29	7	7	6	12	10	22	315	15.4	
計		188	330	423	439	248	77	65	36	42	19	49	113	2029	99.5
数量		1		2	2			4	1	1	11	0.5		2040	100
明度		W (9.5)	HcY (8.5)	mCY (6.5)	mCY (6.5)	mCY (4.5)	dCY (3.5)	dCY (2.5)	BK (1.0)						

表2-4 冬

トーン	色相	2・R	4・rO	6・yO	8・Y	10・YG	12・G	14・PG	16・PB	18・B	20・V	22・P	24・RP	計	%
V	ビビッド	17	13	10	4	2	1	9	7	16	7	5	10	101	4.9
P	パール		1		1	1		1	6	15	16	6	5	51	2.5
H	ライト			1	1				4	15	3	3		27	1.3
b	フライト	1	2	2					4	6	3	1		19	0.9
Φ	ディープ	16	5	5	2	2	3	4	17	7	6	7	9	83	4.1
κ	ターク	36	26	42	45	21	17	38	64	88	35	27	27	466	22.8
†	ライトグレ イッシュ	17	10	7	17	8	14	5	47	59	43	18	16	261	12.8
g	グレイッシュ	18	20	22	33	18	16	18	61	50	39	13	24	332	16.3
d	ダール	2	3	3	5	2	2	1	9	43	13	3	9	95	4.7
計		107	80	92	107	54	53	76	219	299	165	83	100	1435	70.3
数量		83	79	95	52	51	48	69	60	605	29.7			2040	100
明度		W (9.5)	HcY (8.5)	mCY (6.5)	mCY (6.5)	mCY (4.5)	dCY (3.5)	dCY (2.5)	BK (1.0)						

表3-1 春

色相	2・R	4・rO	6・yO	8・Y	10・YG	12・G	14・PG	16・PB	18・B	20・V	22・P	24・RP	無彩色	%
(1) 資料	+8.6	+18.0	+23.3	+28.0	+12.0	-1.2	-1.0	-1.8	-1.4	-0.2	-1.4	-2.7	-0.4	100
(2) 資料	+9.2	+16.2	+20.7	+21.5	+12.2	-3.8	-3.2	-1.8	-2.1	-0.9	-2.4	-5.5	-0.5	100

表3-2 夏

色相	2・R	4・rO	6・yO	8・Y	10・YG	12・G	14・PG	16・PB	18・B	20・V	22・P	24・RP	無彩色	%
(1) 資料	-7.3	-2.4	-4.9	-4.1	-1.6	-2.6	-3.1	+9.2	+17.8	+7.6	-4.1	-3.3	+22.0	100
(2) 資料	-5.2	-3.9	-4.5	-5.2	-2.7	-2.6	-3.7	+10.7	+14.7	+8.1	-4.1	-4.9	+29.7	100

表3-3 秋

色相	2・R	4・rO	6・yO	8・Y	10・YG	12・G	14・PG	16・PB	18・B	20・V	22・P	24・RP	無彩色	%
(1) 資料	+8.6	+18.0	+23.3	+28.0	+12.0	-1.2	-1.0	-1.8	-1.4	-0.2	-1.4	-2.7	-0.4	100
(2) 資料	+9.2	+16.2	+20.7	+21.5	+12.2	-3.8	-3.2	-1.8	-2.1	-0.9	-2.4	-5.5	-0.5	100

表3-4 冬

色相	2・R	4・rO	6・yO	8・Y	10・YG	12・G	14・PG	16・PB	18・B	20・V	22・P	24・RP	無彩色	%
(1) 資料	-7.3	-2.4	-4.9	-4.1	-1.6	-2.6	-3.1	+9.2	+17.8	+7.6	-4.1	-3.3	+22.0	100
(2) 資料	-5.2	-3.9	-4.5	-5.2	-2.7	-2.6	-3.7	+10.7	+14.7	+8.1	-4.1	-4.9	+29.7	100

季別に比較したものであるが一因子即ち春の因子として出現率の低い14・BG, 18・B, 22・Pが増となり, 色調別では, pトーンが減, ltトーンが増であった. これらの現象の中に配色構成美の効果をあげる要因があるのではないかと考えるが後に改めて詳しく検討したい. 以上データから春の因子色はpトーンを主体としてltの2つのトーンに位置し, 色相よりトーンが影響する傾向にあるといえる.

2. 夏のイメージ色

夏の因子色を色相別(表3-2)に見ると18・B (16.5%), 8・Y (16.3%), 4・rO (12.7%), 2・R (12.3%), 12・G (10.8%)は^{プラス}の因子といえる. ^{マイナス}因子は20・V (1.0%), 22・P (0.6%), 24・RP (0%)で紫から赤紫色相で, 赤の暖色系と青が色相の+因子であるといえる. 色調はvトーンに集中し83.3%, bトーンが7.8%, その他のトーンには因子色は見られない.

表1-2から夏の因子色を10位まで抽出すると

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. v 8 (8・Y-8.0-9s · 5.0Y 8.0/13.5) | 2. v 4 (4・rO-5.5-9s · 10R 5.5/13) |
| 3. v 18 (18・B-3.5-9s · 5.0PB 3.5/10) | 4. v 2 (2・R-4.5-9s · 5.0R 4.5/13) |
| 5. v 12 (12・G-5.5-9s · 2.5G 5.5/10) | 6. v 6 (6・yO-7.0-9s · 7.5YR 7.0/13) |
| 7. v 14 (14・BG-4.5-9s · 2.5BG 4.5/10) | 8. b 18 (18・B-5.0-8s · 2.5PB 5.5/9.0) |
| 9. v 10 (10・YG-7.0-9s · 5.0YG 7.0/10) | 10. W9.5(n-9.5 · N-9.5) |

8位と10位以外はvトーンが占めた. 表1-2, 表2-2は共に同傾向を示しているが表2-2は春と同様, 夏の因子色として高い色が減少し, 10・YG, 14・BG, 16・gB, の夏の因子から遠い色相系列が増加している. またvトーンに傾斜していたのに対して, bトーンが増加した. これは夏のイメージを色彩で構成するにあたって, b, ltトーンを入れることで, 夏のイメージ効果を高めるのに効果をあげると考える. v 8, v 4, v 6, v 18が代表色で, 夏の因子の低い色は20・V~24・RPの色相である.

3. 秋のイメージ色

色相系列では(表3-3), +の因子は8・Y (28.0%), 6・yO (23.3%), 4・rO (18.0%)の順を示し, 色相の範囲は2・R~10・YGに分布し, 12・G~24・RPは出現率が低いトーン別では, dk (33.1%), dp (31.0%), g (12.2%), d (12.7%)と各トーンに分布がみられた. 表1-3から秋の因子色を挙げる.

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1. dk 6 (6・yO-3.5 -5s · 5.0YR 3.5/5) | 2. dp 8 (8・Y-6.0 -8s · 5.0Y 6.0/9) |
| 3. dk 8 (8・Y-4.0 -5s · 5.0YR 4.0/5) | 4. dp 4 (4・rO-4.5 -8s · 10R 5.0/10) |
| 5. dp 2 (2・R-3.5 -8s · 5.0R 3.5/11) | 6. dk 4 (4・rO-3.0 -5s · 10R 3.0/5) |
| 7. d 8 (8・Y-6.5 -6s · 5.0Y 6.5/6.5) | 8. dk10 (10・YG-3.5 -5s · 5.0GY 4.0/3.5) |
| 9. dp 6 (6・yO-5.5 -6s · 7.5YR 5.5/11) | 10. g 10 (10・YG-4.0 -3s · 5.0GY 4.0/3.5) |

表2-3では, dp 8を第1にdk 6, dp 6, dk 8, dp 4とつづきこれら5色は, ほぼ同一数値を示した.

なお秋の代表色はdp 8, dk 4といえる. 分布傾向は4・rO~8・Yに集中し, dp, dkトーンに秋の因子色が抽出される. 色相の分布は狭く, 各トーンに広がった点は, 秋の特徴であり, 春夏と異なる分布を示した.

4. 冬のイメージ色

ここでは無彩色が因子色として抽出されているのでそれを含めて分析する.(表1-4)無彩色W-BKまでが全体の32.0%, 次にdk (23.3%), g (13.7%), ltg (12.9%)であり, 色味が少ないのは冬の特徴といえる. 色相では冬の因子色として18・Bと16・gBの青系が抽出

される。表1-4から冬の因子色10色を挙げると

- | | |
|---|--|
| 1. W(9.5) (n-9.5 · N-9.5) | 2. dk18 (18·B-1.8 -5s · 2.5PB 2.0/3.5) |
| 3. ltg18 (18·B-6.0 -3s · 2.5PB 5.5/2.5) | 4. ltGy (7.5) (n-7.5 · N-7.5) |
| 5. dkGy (2.4) (n-2.4 · N-2.4) | 6. ltGy (8.5) (n-8.5 · N-8.5) |
| 7. dkGy (3.5) (n-3.5 · N-3.5) | 8. BK (1.0) (n-1.0 · N-1.0) |
| 9. g 18 (18·B-3.0 -3s · 2.5PB 3.5/3.5) | 10. mGy (5.5) (n-5.5 · N-5.5) |
| | ltg20 (20·V-6.0 -3s · 10PB 5.5/2.3) |
| | dk 2 (2·R-6.0 -3s · 10PB 5.5/3.5) |

冬の因子としては無彩色の白が最も高く、有彩色としては18·Bの色相が強い因子であり、次に対比色ともいえる色相6·yO, 2·R, のdkトーンが抽出されているのも注目したい。全体的に色味が少なく低彩度の色が抽出されている。無彩色W~BKについては9段階mGy6.5~4.5までの暗い色は少なく、W~ltGy(9.5~7.5)の高明度が多く抽出されている。表2-4有彩色と無彩色の比率はやや有彩色が表1-4より増加し、dpが減少しgトーンが増加している。無彩色についてはWが減少し、mGyが増となって9段階全体に分布した。

以上、四季の色のデーターであるが(2)の資料において各四季に共通する点は四季のイメージを効果的に表現するために(1)資料より、色相が分散し、トーンも広がりが見られる。これらの色の分析を試み、四季の色の構成美を表現する要因を追求する必要があると考える。

5. 四季のイメージ用語と色について

方法の項(3)によってイメージした用語を次のように分類した。1. 植物(花), 2. 動物(魚・鳥), 3. 自然・情景, 4. 様態・装飾, 5. 人工・行事, 6. その他の6項目とし、1~3は自然の因子, 4は様態を表わす因子, 5は人事的因子とする。また方法の項(4)によって、用語から連想した色を集計し、色相と用語の関係を探った。用語の数は1季5種づつとしたが未記入もあり、四季それぞれ母数が異なる。1~10位までは四季各々1語につき9人以上の複数によって挙げられた用語である。従って四季を表す代表的な用語として1~10位をとりあげたが、数少ない用語の中にも、忘れられている四季の風情を感じさせる用語が挙げられている。これらのあげられた用語からも年代、性別、環境等の要因が影響すると考え、世相の変遷からとらえるとき忘れてはならない用語であると考え、今回10位以下はその他の数として集計した。なお色相は連想した物体に対する色であることから客観性を必要と考え1用語に対して1人だけが挙げた色相はここでは省いた。

(1) 春のイメージ用語

1) 植物因子の用語が43.4%、さくら、たんぽぽ、新芽・若葉、なの花、つくし、れんげ、藤の花、花、すみれを挙げたものが多く、その他ふきのとう、よもぎ、さくらんぼなど多種に及び植物にイメージを寄せている。

2) 動物(魚・鳥)の因子が5.6%、蝶々の他、うぐいす、小鳥、おたまじゃくしなどの用語が4種で一人が挙げたに止まり自然との関係が薄らいでいるように思われる。

3) 自然・情景の因子が、11.1%。そよ風、小川、雪解け、露、春風、の他、あけぼの、せせらぎ、おぼろ月などの季節感を感じずる用語が21種。

4) 様態の因子21%。あたたか、ポカポカ、やわらか、温い、やさしさ、ほのほのなど多種にわたり28種。

5) 人工・行事の因子18.4%、入学式、花見、昼寝、新一年生、出発、日なたぼっこ、こいのぼりなどの春の行事やことの始まりとなる言葉が多く用語は27種にも及んだ。

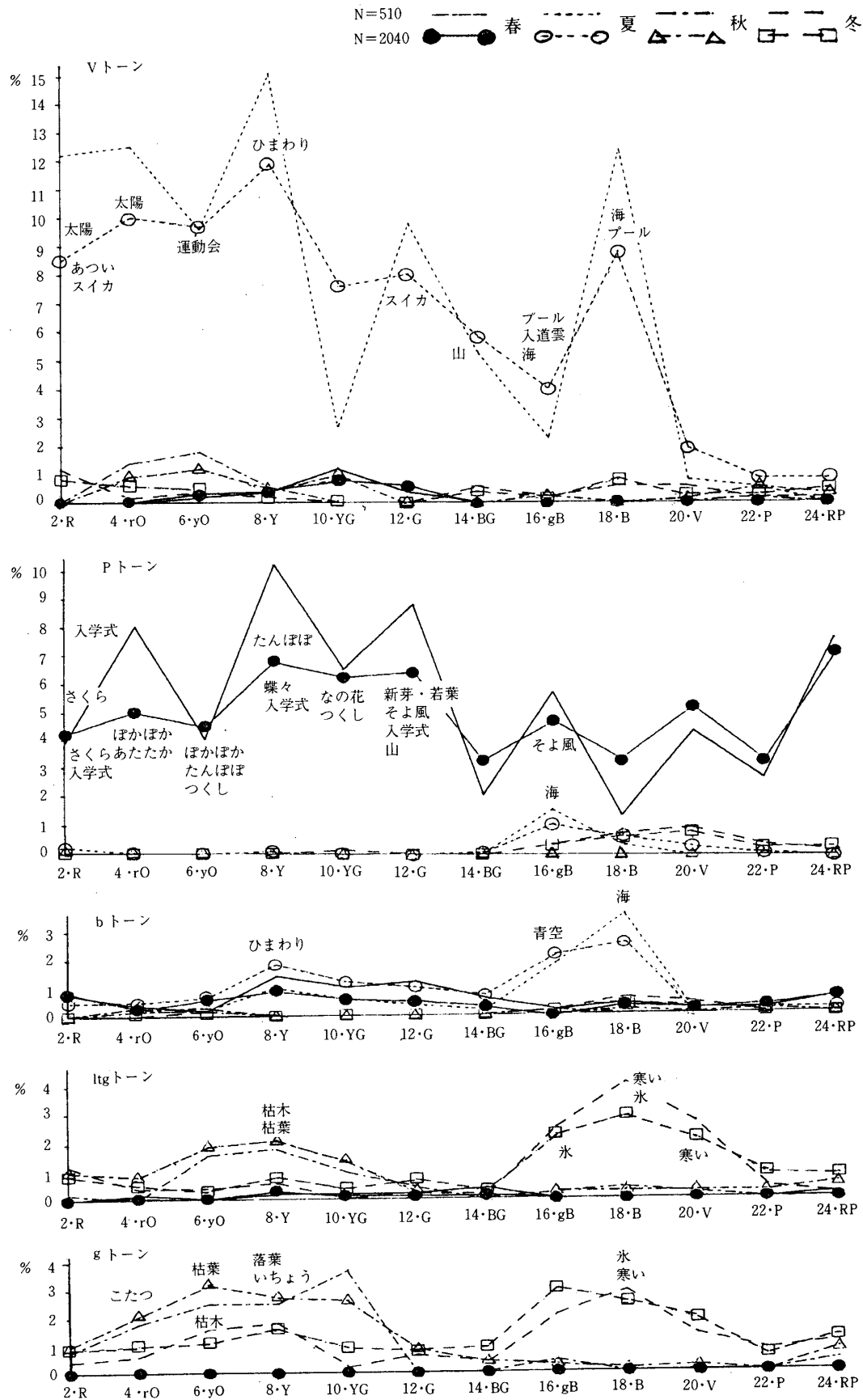


図1-1 四季別、トーンと色相及び用語との関係

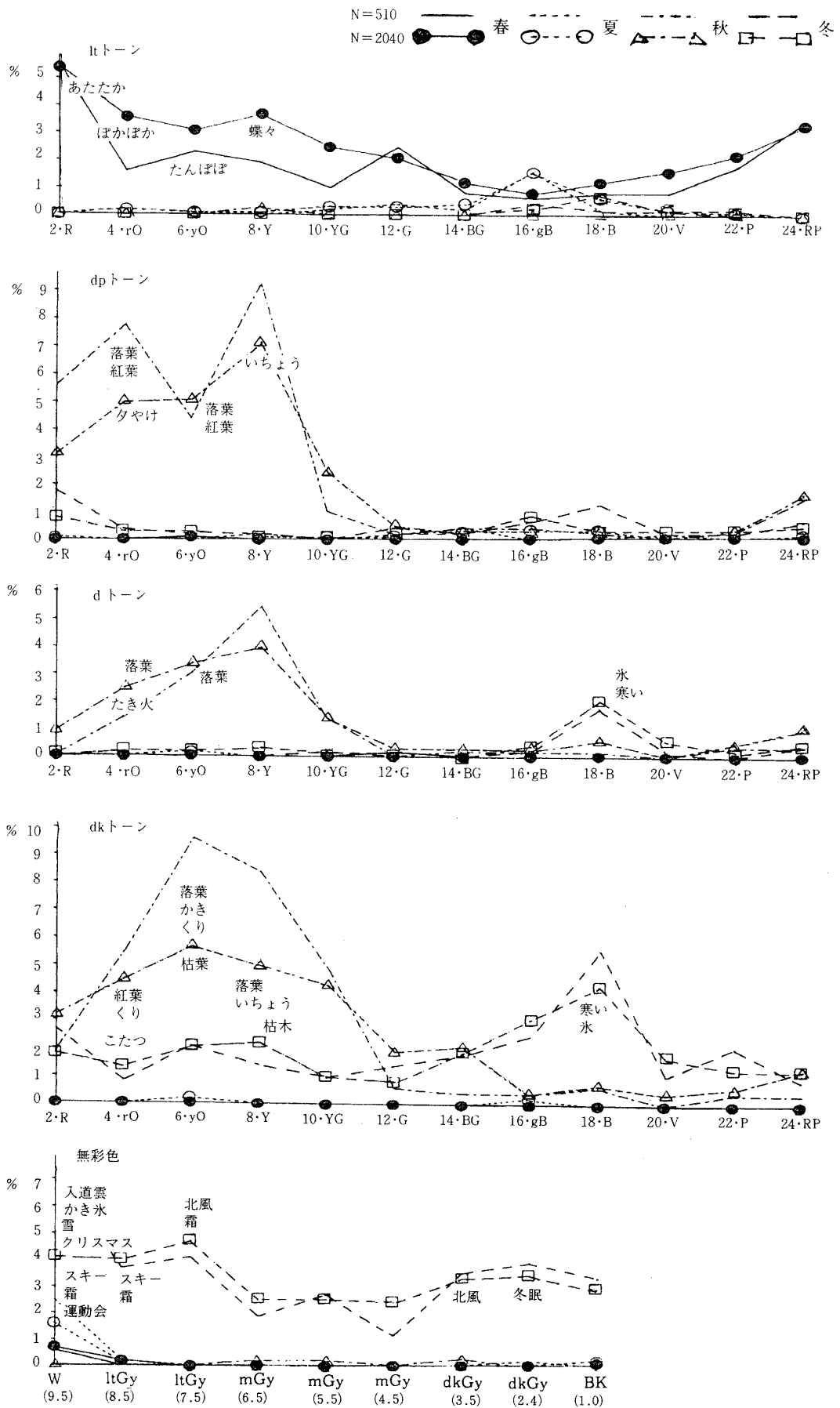


図1-2 四季別、トーンと色相及び用語との関係

6) その他1.0%で, 1~3の自然因子からの用語は59.6%である.

(2) 色相と用語の関係

春のイメージ用語を1~10位まで挙げ方法(4)によって12の色相系列で調査した.

用語名, 数量, %, 色相の順とする. N=446

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1. さくら 69人 15.5% 24・RP, 2・R | 2. たんぽぽ 26人 5.8% 8・Y |
| 3. 新芽若葉 25 5.6 10・YG, 12・G | 4. 入学式 24 5.4 24・RP, 2・R, 12・G, 4・rO, 8・Y |
| 5. ぽかぽか 20 4.5 4・rO, 6・yO, 2・R, 8・Y | 6. 蝶々 18 40.0 8・Y, 22・P, 6・yO |
| 7. あたたか 17 3.8 4・rO, 6・yO, 2・R, | 8. そよ風 14 3.1 10・gB, 12・G, 14・BG |
| 9. のの花 13 2.9 8・Y, 10・YG | 10. つくし 10 2.2 6・yO, 8・Y |

その他10位以下の数が210, 47.2%, これらの色相を表1-1の出現率と併せて, 図1に位置付けてみた. さくら24・RP, 2・Rの色相はPトーンの出現率の高い色と関係し, たんぽぽ, 菜の花の8・YのP, lt, b, トーンに位置付けられる. P10と新芽・若葉とに関連がみられる. 4, 5, 7, 8は具体化された物体でないために, 被験者によってイメージ因子が異なるので色相がやや分散した.

(3) 夏のイメージ用語

1) 夏をイメージした植物用語は17.4%と少なく, ひまわり, すいか, 新緑, やし木, さぼてん等の7種の用語が挙げられた. そのうちひまわりは60.3%で夏の植物の代表といえる.

2) 動物(魚・虫)因子では2.8%, せみの他金魚, かもめが挙げられ, わずかな数であった.

3) 自然・情景の因子は最も多く48.9%で用語の種類は26種にも及んだ, 代表的な用語は, 海, 太陽, 入道雲, 青雲, 山, 森林, 木かげ, 波, 砂浜などが順にあげられるが, そのうち, 海は26.3%, 太陽は20.9%で情景イメージの半数がこの2つの用語で占められる.

4) 様態, 装飾の因子は11.3%, あつい, ギラギラ, 情熱, じりじり, 開放など用語20種が挙げられた.

5) 人工, 行事に関する因子用語は17.4%, プール, かき氷, 汗, 夏休み, 夏まつり, サーフィン, そうめん, 麦わら帽子の他, 夏の風物, スポーツ, 飲料水等に関係した用語が一人一語と挙げられ30種にも及んだ.

6) その他 0.2%

(4) 色と用語の関係

イメージ用語10位までを挙げると N=397

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 1. 海 72人 18.1% 18・B, 16・gB | 2. 太陽 56人 14.1% 4・rO, 2・R, 8・Y, 6・yO |
| 3. ひまわり 36 9.1 8・Y, 6・yO | 4. あつい 20 5.0 2・R, 4・rO, 8・Y |
| 5. すいか 18 4.5 2・R, 12・G, 14・BG | 6. 入道雲 14 3.5 W, 16・gB, 18・B |
| 7. プール 11 2.8 16・gB, 18・B | 8. かき氷 10 2.5 W, 16・gB, 2・R, 24・RP |
| 9. せみ 9 2.3 6・yO, 4・rO, 2・R, 8・Y, 12・G | 10. 青空 9 2.3 18・B, 16・gB |
| | 山 9 2.3 12・G, 14・BG, 6・yO, 10・YG |

10位以下は総てを含めた数113, 33.4%にあたる. 色と用語の位置づけは図1-1に示した.

夏の因子色, v 8, v 4, v 2, は暖色系の代表因子で太陽, あついに, v 18, 16・gBは海, 青空, プールとのイメージ色となる. なお用語のイメージを色相で調査したがトーン別についても確認のため一部調査を試みた. 太陽はv 4, あついはv 2をイメージ色としているものが多い. かき氷はイメージ色が分散した. 夏は自然因子用語が66.3%. 上位用語のうち2種は, 人工, 人事の因子である.

(5) 秋のイメージ用語

1) 植物因子は55.4%で四季を通して最も高い。それらの用語は、落葉、紅葉、かき、枯葉、いちょう、ぶどう、どんぐり、すすきなど26種。

2) 動物(魚・鳥)因子は3.7%。赤トンボ、その他、さんま、こおろぎ、からす。

3) 自然・情景の因子7.5%。夕やけ、木枯し、他17種。

4) 様態・装飾の因子8.2%。さびしい、おいしい、しんみり、なつかしいなど用語は30種余りに及んだ。

5) 人工、行事の因子24.4%。運動会、たき火、読書、遠足、孤独、衣替、食飲など秋の行事、収穫に関わる用語30種余りが挙げられた。

6) その他0.8%秋は自然の因子用語が最も高く66.4%その内植物のイメージ用語は83.1%となり紅葉、落葉、枯葉で代表される。

(6) 色と用語の関係

秋のイメージ用語1~10位を抽出した。 N=481

- | | | | | | | | |
|---------|-----|-------|---------------------------------|---------|-----|------|----------------------|
| 1. 落葉 | 68人 | 14.1% | 6・yO, 8・Y, 4・rO | 2. 紅葉 | 44人 | 9.1% | 6・yO, 8・Y, 4・rO |
| 3. かき | 42 | 8.7 | 6・yO, 4・rO | 4. くり | 28 | 5.8 | 6・yO, 4・rO, 8・Y |
| 5. 枯葉 | 26 | 5.4 | 6・yO, 8・Y, 4・rO | 6. 赤とんぼ | 13 | 2.7 | 2・R, 4・rO |
| 7. いちょう | 12 | 2.5 | 8・Y, 6・rO | 8. たき火 | 11 | 2.3 | 4・rO, 2・R, 6・yO, 8・Y |
| 9. 運動会 | 11 | 2.3 | 6・yO, 2・R, 4・rO, 16・gB, W, 12・G | 10. 夕やけ | 9 | 1.9 | 4・rO, 2・R |
| 11. その他 | 217 | 45.2% | | | | | |

秋は用語、色彩共に植物因子の落葉、紅葉、枯葉に代表され図1-2 dk 6, dp 8, dp 4, 等と用語と色の関係が成り立つ。10種のうち8種は自然の因子で物体の色からも抽出できるが行事、人工的因子の運動会は被験者によってイメージしたものが異なり、各色相から抽出された。

(7) 冬のイメージ用語 N=358

1) 植物の因子用語は8.1%、みかん、枯木、枯葉、以外にもみの木、ねこやなぎ等があげられるが用語数が少ない。

2) 動物の因子はわずか0.3%、きつねが1語。

3) 自然、情景因子、43.2%。雪、氷、冬眠、霜、北風、くもり空など23種。雪に集中し43.9%を占めた。

4) 様態を表わす因子では16%。寒い、暗い、冷たい、ピューピュー、静、シンシン、ガタガタなど23種。

5) 人工、行事の因子32.1%。こたつ、クリスマス、たき火、スキー、コート、セーター、鍋物、お正月、ストーブ等44種に及んだ。この項では特に学生と身近なものの用語をあげている点に特色がみられ、こたつの用語が最も高かった点は学生たちの生活にも、日本の生活様式が日常生かされていることを意味していると考えられる。

6) その他0.3%であった。

(8) 色と用語の関係

冬のイメージ用語10位まで N=358

- | | | | | | | | |
|--------|-----|-------|-----------------|----------|-----|------|---------------------------------|
| 1. 雪 | 68人 | 19.0% | W | 2. 寒い | 23人 | 6.4% | 18・B, 20・V |
| 3. こたつ | 20 | 5.6 | 4・rO, 2・R | 4. クリスマス | 19 | 5.3 | W, 2・R, 12・G, 14・BG |
| 5. 氷 | 18 | 5.0 | 18・B, W, 16・gB | 6. スキー | 16 | 4.5 | W, ltGy (8.5) |
| 7. 冬眠 | 14 | 3.9 | dkGy (2.4) 6・yO | 8. 霜 | 12 | 3.4 | W, ltGy (8.5), 18・B, ltGy (7.5) |

9. みかん 12 3.4 6・yO, 8・Y, 4・rO 10. 枯木 10. 2.8 18・B, ltGy (7.5)
 11. その他 116 37.9

冬の因子色としては無彩色のBK(黒)~W(白)に至るまで広く分布し、ltGy(7.5)を最高にW, ltGy(8.5)と高明度にやや多く分布し有彩色ではltg, g, dkの各トーンに、色相は18・B, 16・gBに分布している。

色と用語関係を探ってみると白と雪、スキー、氷にdk18, dk16は寒い用語と因子関係がみられる。

用語については、四季と関連して挙げられた色の関係を探ってみたが、近江源太郎氏「色彩世相史」に⁴⁾赤の連想語や嗜好色30年の移り変わりの項で述べているように、対象、環境、時代によって変わると考える。

今回現代の女子大生の興味を示す服装、スポーツ、行事に関わる用語が挙げられていた一方、四季のイメージという課題であったことから、自然をイメージした用語が比較的多いと思われた。

要 約

四季のイメージ色を感覚的に今までとらえていたが、客観的にとらえた因子を数量化し、分析することによって、因子色を具体的に抽出することができた。

- 1) 春の因子色はpトーンにあり、色相は全体的に分布するがその中でも暖色系に傾き、B系はやや因子度は低い。
- 2) 夏の因子色はvトーンが83%強、色相は2・R~8・Yの暖色系と対比する16・gB~18・Bの2系列にみられた。
- 3) 秋は、春夏と異なる傾向を示し、色相は6・yO, 4・rO, 10・YG, の紅葉、落葉の色に集中し、トーンはdp, dk, gの各トーンに分布した。
- 4) 冬は無彩のW, ltGy, dkGyと有彩色g, ltgの色味の少ないトーンに因子がみられ、色相は16・gB, 18・Bに集約される。
- 5) 用語と色の関係の四季の代表因子は春では8・Yのたんぽぽ、なの花 24・RPのさくら、入学式、12・G新芽、若葉、夏は18・Bと海 8 Y系とひまわり 2・R, 4・rOと太陽、のように秋冬ともに四季の因子色とイメージ用語の関連を総合的にみることができた。また自然の因子から用語を挙げるものが多く、四季ともに50%以上を示した。

最後に今回、四季のイメージ色と用語の関係をとりあげて調査したが、我々のとりまく環境は普遍化し、日本的な色彩感覚や、季節感が乏しくなっているが現代の女子学生の四季に対するイメージを明らかにすることによって、その背後にある自然の因子が四季のイメージ色と深く関わっていることを知った。今回の調査資料は時代とともに変遷する色彩文化の中で、現代の環境色、生活における色彩を考える一助となると考える。

参 考 文 献

- 1) 総理府広報室編：日本人のライフスタイル、P 55 総理府広報室（世論調査）（1987）
- 2) 長崎盛輝：かさね色目配色考、P 230~235、京都書院（1987）
- 3) 大智浩：デザインの色彩計画、P 131~140、美術出版社
- 4) 近江源太郎：色彩世相史 P 12, P 98, 至誠社選書, (1983)

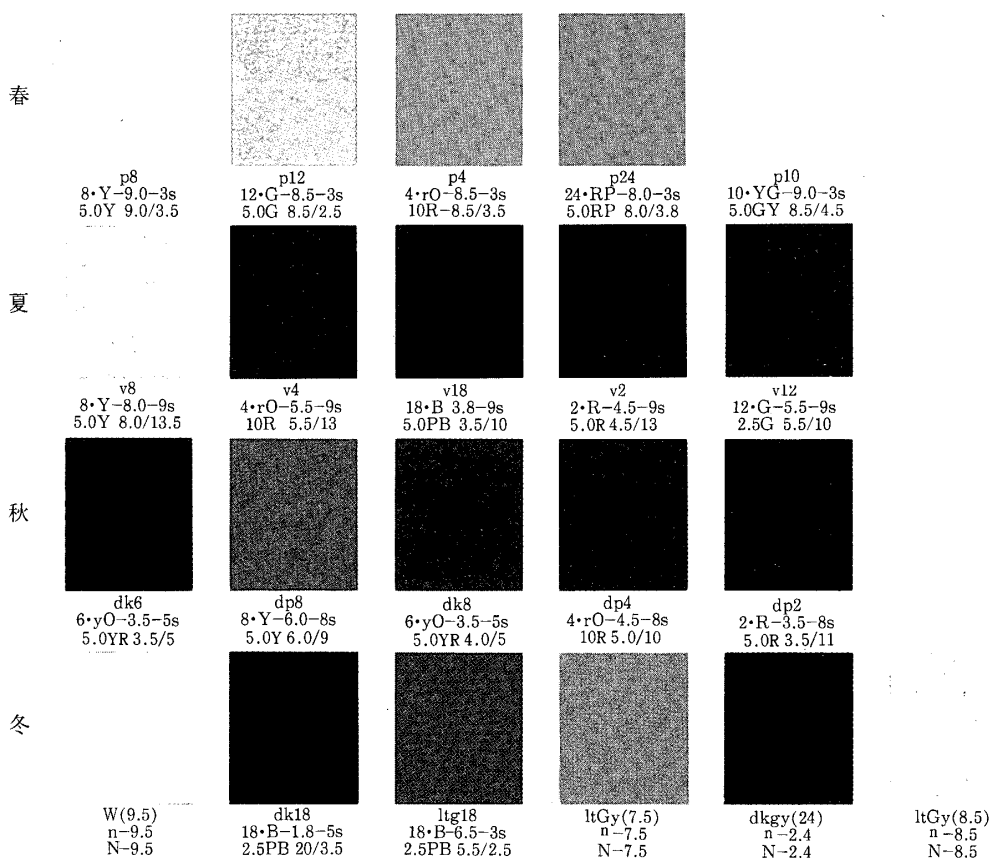


図2 四季の因子色 (上位5位まで)

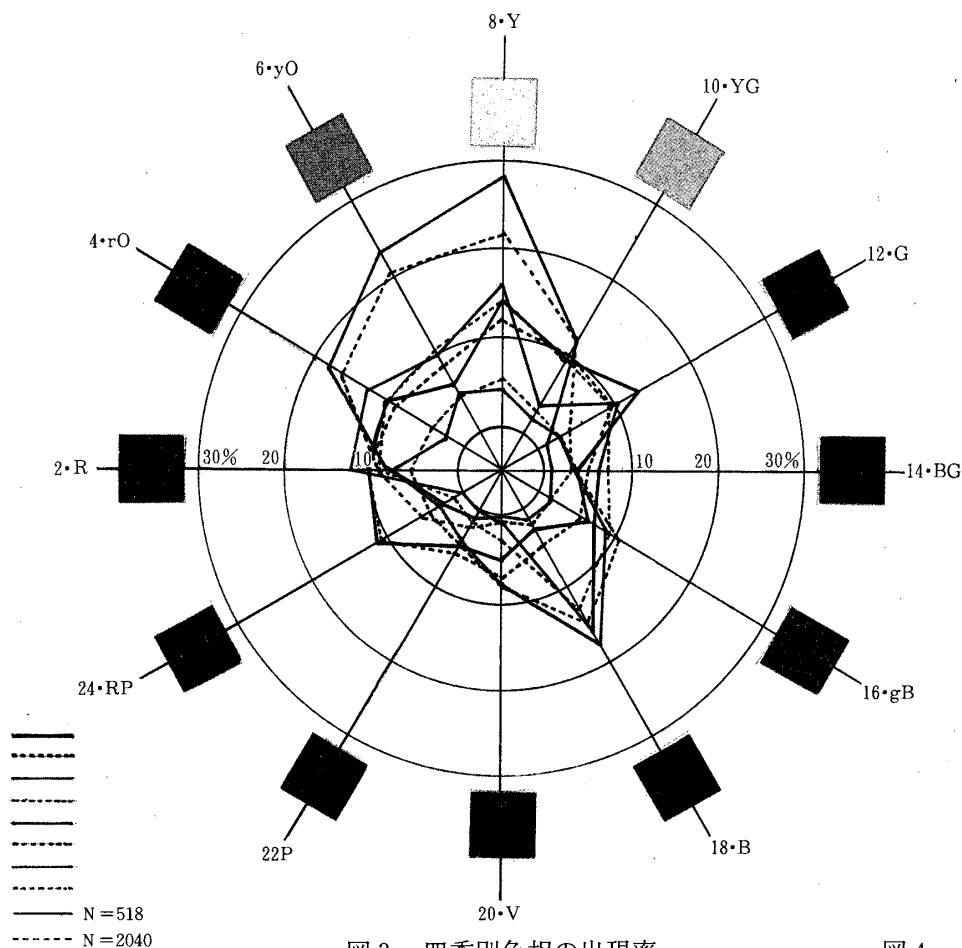


図3 四季別色相の出現率

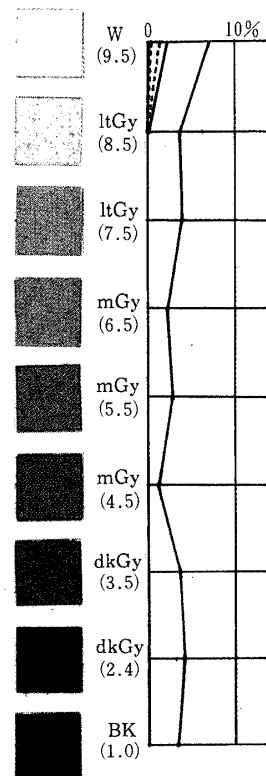


図4 四季別、無彩色の出現率